平成24年度を振り返って

県立薩南病院　院長　古川　重治

薩南病院の平成24年度はいきなり4月からのDPC/PDPSへの参加で始まりました。電子カルテの整備によるコーディング作業の効率化と正確さの向上，地域医療連携室の充実による退院支援の実施，職員の教育などDPC/PDPS に参加するに当たり，できる限りの対策は打っていたつもりですが，在院期間が想像以上に短くなり，新規入院患者件数もそれほど増えなかったため，結果的に極端な病床利用率の低下を招いてしまいました。

したがって，DPC/PDPS 参加による単価の上昇では，延べ入院患者の減少による減収を補えず，経常収支は 23 年度に続き赤字となってしまいました。

特にがん等，大手術の減少は，4 月に行われた診療報酬改定で手術手技料の大幅増額もあり，DPC/PDPS 移行後の収益の柱となることを期待していたのですが，期待外れに終わっただけでなく，10 月に新たに整備した外来化学療法室の運用率の低下をもたらしました。

当院は，南薩二次医療圏唯一の地域がん診療連携拠点病院として，南薩地域のがん患者さんを集約できる施設を目指し，より一層努力する必要があります。

病院主催の大きな行事としては，10 月 27 日，「第 48 回県立病院学会」を地元の加世田で開催するとともに，当院が昭和 27 年 7 月に結核療養所として産声をあげて 60 年目という節目に当たることから，多数の来賓を迎えて「県立薩南病院創立 60 周年祝賀会」を催しました。

診療面では，河野循環器科部長が 4 月に赴任し，冠動脈形成術を始めるとともに，緊急心カテーテル，並びに緊急 PCI ができる体制の整備を行い，10 月から緊急 PCI にも対応することもできるようになりました。

念願の緊急 PCI 体制が構築されたことは，南薩二次医療圏では急性心筋梗塞をはじめとした急性冠動脈症候群に対応できる唯一の施設となり，地域支援病院としての価値が一層増したものと思います。

11 月 11 日，恒例の「薩南病院市民講座」において，河野循環器科部長が PCI についての市民向け講演を行いました。

冠動脈形成術を行うことで，緊急はもちろん，待機的心カテーテル患者も増えてきたため，循環器内科2人の体制ではオーバーワークになりつつあります。

救急医療については，小児科，整形外科の休診にも関わらず，救急搬送されてくる患者は毎年右肩上がりに増えており，高規格救急車が当院へ搬送したCPAの患者は61人と過去最高を記録しました。

ただ残念なことに，生活圏，医療圏とも一致していた南さつま市，南九州市，枕崎市の3市で構成されていた南薩消防組合が24年度いっぱいで解散され，25年度からは南九州市は指宿消防組合と合併し，枕崎市，南さつま市はそれぞれ単独の消防本部となり，救急体制から見ると非常に不合理なことになります。

これまで薩南病院の診療圏のうち，日置圏を除くと，南薩消防組合として一つの消防組合が対応しており，日頃からお互い顔の見える関係を構築して緊密に協力していたことを考えると，南薩消防組合が3つに分裂したことは，広域合併して機能強化を果たすというシナリオとは全く逆行しているため，できるだけ早く新たに再編成されることを期待します。

災害拠点病院については，毎年行っている大規模災害訓練は年々規模，内容とも充実してきており，11月にはDMATの研修に三枝副院長を中心に1チーム編成して参加し，はれてDMATを保有する災害拠点病院となりました。

これから先も，公的病院の責務として災害拠点病院としての機能を充実していかなければなりません。医師に余力があれば，2チーム目を編成したいと思います。

最後に，薩南病院誕生と前後して，近くの金峰町に生まれ，薩南病院のために長年尽力されてきた川上総看護師長が24年度をもって定年退職となりました。

気力，体力ともまだまだ若いので退職後も御活躍のことと思いますが，まずはお疲れ様でした。そして長い間ありがとうございました。